

ET Contact: The Implications for Post Contact Advancements in Science and Technology

Theodore C. Loder III, PhD

Professor Emeritus, University of New Hampshire

and Member of CSETI

Copyright: Theodore C. Loder III, 2011, All Rights Reserved

ET コンタクト： 地球外文明との公然コンタクト後に予測される 科学および技術の進歩

セオドア・C・ローダー三世，博士

CSETI (地球外知性体研究センター) メンバー

著作権 セオドア・C・ローダー三世，2011年

([公開プロジェクトのウェブサイトより](#))

要 旨

進化した ET 諸文明との公然コンタクト (open contact) が起きた後の科学および技術の進歩が、地球を訪れるために必要な技術、知識を分かち与えようとする ET の意思、コンタクティーたちによる多数の目撃情報、および彼らが ET から伝えられた事柄の複合的分析にもとづき、予測される。今ひとつの問題は、習得した知識を持ちながらそれを数十年間抑圧し続けてきた地球人グループの、知識を共有しようとする意思である。おそらく彼らの知識には、ET も開発している多くの技術が含まれるであろう。ここでは輸送 (反重力を含む)、エネルギー発生 (オーバーユニティ装置を含む)、通信 (超光速装置および意識通信を含む)、医療 (病気の治療、それによる延命を含む)、および意識 (人間の精神性についての理解向上を含む) の 5 分野が取り上げられる。換言すれば、一般に認知された公然コンタクトが起きた暁には、人類活動の多くの分野において重大な変化が生まれ、もはやそれが '後戻り' することはない。最終的にこれは 'きわめて望ましいこと' になるであろう。

序 論

別の恒星系の知的存在者たちが、これまでこの地球を訪れてきたし、今も訪れている。彼らは訪問者 (Visitors)、別世界の人々 (Others)、宇宙人 (Star People)、地球外知性体 (ETs) などと様々に呼ばれる。本論では、一般に地球由来の人々ではないという意味で、ET という呼称を用いることにする。彼らは '今' 地球を訪れている； このことは憶

測でも思い焦がれでもない。それなりの知能指数と時間を持つ者なら誰でも、それを調べて、次のことを理解することができる：我々は、地球の一般に認知されている科学および技術を凌駕する技術を持つ、知的存在者の‘訪問’を受けている。彼らは、必要なエネルギー発生および通信技術を含め、恒星間宇宙を安全かつ迅速に移動するための先進的技術を開発している。彼らは生命と意識に関する理解力を発達させ、宇宙とその複雑さについてのより包括的な観念、および人類に対する比較展望を持っている可能性が高い。

本論で述べる全面公開（open Disclosure）とは、世界の諸政府とメディアが、ET の実在性、彼らがこれまでも現在も地球を訪れているという事実、および彼らと平和的に交流する時が来たことを全面的に受け入れ、かつ公然と議論する状況を意味する。ひとたび全面公開が起き、これらの事実が地球上で広く受け入れられると、人類活動の多くの分野において劇的かつ急速な変化が生まれることになる。この変化は、ET による知識の供与と共に、地球人の間のプロジェクトが獲得した知識の解放によりもたらされるであろう。これらの間のプロジェクトは、1940 年代以前から、ET および彼らの技術を研究するために数十億ドル単位の資金を費やしてきた。この新たに得られた知識は、前世紀に達成された通常の人類の進歩と相まって、間のプロジェクトがきわめて先進的な技術を開発し、現在それを利用することを可能にしてきた。それらの中には、電気重力／反-または抗重力技術、ゼロポイント・エネルギー装置、超光速通信、進歩した医療および意識技術などがある。本論ではこれらの技術の幾つかを概観する。全面公開が起き、ET との公然かつ平和的な意思の交換が可能になると、これらの技術は必ずや利用可能になるであろう。

これらの技術が知られて受け入れられるようになる速度は、4 つの要因に依存する：1) 知識を分かち与えようとする ET の意思、およびその知識を供与する速度、2) 習得した知識を持ちながらそれを数十年間抑圧し続けてきた間の地球人グループの、知識を共有しようとする意思、3) コンタクティーたちによる多数の目撃情報および彼らが ET から伝えられた事柄の受容、4) 硬直的な地球人の諸機関および政府がこの新しい知識を社会に組み入れる速度。

輸送技術

恒星間宇宙を迅速に移動する技術には、現在の物理学が表明する通常的光速度限界を回避し、またそうするために必要なエネルギー供給を可能にする物理学の理解が含まれる。全面公開が起き、ET がすでに地球を訪れているという事実が受け入れられると、人々が最初に抱く疑問の一つは、彼らはどのようにして地球にやってくるのか？であろう。それに続いて、もし彼らにそれが可能ならば、なぜ我々にはできないのか？となるはずである。これらの疑問に対する答は、我々にはそれが可能、または少なくともそれを可能にする技術を開発中、というものである。T・T・ブラウンらによる初期の実験（1920 年代終わりから 1960 年代）以来、人類は自身の科学と逆行分析された ET 技術にもとづき、反重力輸送技術を発展させてきた。一部には抗重力（counter-gravity）または電気重力（electrogravitics）とも呼ばれるが、ここでは反重力（anti-gravity）という用語を用い

る。これらの技術の発展については、ローダー (Loder 2002), バロン (Valone 2004, 2006), ラビオレット (LaViolette 2008) を含む、多くの著者が論評している。

我々は、少なくともこれらの技術の一部をすでに開発済みであろうか？ - 答はイエスである。公開プロジェクト (the Disclosure Project) (Greer 2001) の証人である複数の軍関係者は、1950年代終わりから続く軍による闇の諸計画について語った。その中では、作動する反重力または電気重力航空機がすでに開発されていた。例を挙げると、国家偵察局 (NRO) の退役諜報員ダン・モリスは、こう述べた：“UFOには地球外のものと地球人がつくったものの両方がある” (Greer 2001, p.364) 彼は、このようにも述べた：我々はすでにゼロポイント・エネルギー装置を持っており、それは電力会社にコードを繋ぐ必要はない、何も燃やさず、汚染も発生しない。別の証人 A・H (ボーイング・エアロスペース社の元社員) は、こう述べた：“宇宙機の大部分は反重力と電気重力推進によって作動する” “我々はまさに今反重力輸送機をそこ (エリア 51) で、またユタ州で飛ばしている...” (Greer 2001, p.402) ビル・ユーハウス (米国海兵隊、退役) は約 30 年間、‘新型航空機 (exotic aircraft)’ (実際の空飛ぶ円盤) のテストパイロットとして働いた。彼は、こう述べた：“この 40 年ほどの間、シミュレータは数えないで - 私は実際の宇宙機について話している - 我々が建造したものはおそらく 20 から 30 数機だろう。様々な大きさのものがあつた” (Greer 2001, p.384-387) 彼はまた、彼が取り組んだ宇宙機の一つが“異星人たちが我々の政府 - アメリカ合衆国 - に提供しようとした一つの制限された機体だった”と述べた。この機体には 4 人の異星人が搭乗しており、そのすべてが研究のためにロスアラモスに運ばれた。航空宇宙イラストレーターのマーク・マキャンドリッシュは、ブラッド・ソレンソンが語った 3 機の ARV (複製された異星人の輸送機、フラックス・ライナーとも呼ばれていた) のうちの 1 機を図解した。ソレンソンは、1988 年 11 月にノートン空軍基地にある格納庫を訪れてこれらを見た (Greer 2001, p.497-510)。その中で、彼はこう語った：“床から浮揚した 3 機の空飛ぶ円盤があつた - それらを吊り下げている天井からのケーブルなどはなく、下に着陸ギヤもない - まさしく床の上に浮揚、空中静止していた” それらの円盤は、直径が 24 フィートから 60 フィートあつた。地球人が建造したものであり、2 個の大きな 24 ボルト・バッテリーを用いて始動した。我々に言えることは、これらのタイプの航空機技術は著しい発展を遂げ続けているということである。なぜならば、ソレンソンが見た円盤は四半世紀以上も前に建造されたものだったからである。その当時の早い時期に、ET と米国政府との間に何らかの協力関係が存在していたように思えることは、注目に値する。全面公開により、この協力関係が一般に認知され、公然と再開されるようになることを願うばかりである。

これらの輸送技術の開発は、どれほど進展しているのでしょうか？ 元ロッキード・スカンクワークス所長ベン・リッチの言葉が我々の心を深く揺さぶる。彼は (1993 年に) ジャン・ハーザンらに、こう述べた：我々は ET を故郷の星に帰す技術をすでに持っている (Keller 2010, P.168)。そのときの二人だけの会話で、ハーザンはリッチに、それ (UFO 推進システム) はどのような仕組みで作動するのかと訊ねた。リッチ - “あなたに質問しよう、ESP (超感覚的知覚) はどのような仕組みで働くと思うか？” ハーザン - “時空のす

すべての点は連結している, ということでしょうか?” リッチ - “それこそが答だ! この概念は 1927 年にシュレディンガーによって洞察されたものだ” (後述する通信技術の項を読みたい)

過去 60 年以上行なわれてきた大規模な ET 情報隠蔽の大きな理由の一つは,それが数兆ドルの規模を持つ我々の輸送およびエネルギー部門全体に関係するからである。人々から金を絞り上げ, 自らの利益のために世界経済を支配する, そのことのために世界に対して ET 情報を公表しないことは, 闇の支配者グループによる重大な犯罪行為である (Greer 2001 ; Marrs 2010)。将来の地球社会が輸送用の動力に化石燃料を必要としなくなり, 反重力技術が利用され始めるにつれて道路の必要性がなくなっていく様子を想像してほしい。これらの技術が公共利用のために開発されると, 物資や人々の輸送にとどまらず, 化石燃料/エネルギー部門の全体, 世界の銀行業や製造業, 世界政治といった, 人類活動のあらゆる側面に甚大な影響を及ぼすことになる。全面公開が起きると, 支配者グループは支配力を失う。明らかに彼らはそれを恐れて ET 情報を秘密にしているのである。

エネルギー発生技術

上に述べたように, 恒星間宇宙の広大な距離を移動する ET は, 従来の地球型燃料ではなく, 空間自体から得られるエネルギーを利用している - いわゆるゼロポイント・エネルギーまたは量子真空エネルギーである。前項においてダン・モリスは, 闇のプロジェクトの中ではそのような装置がすでに開発されていると述べた。マキャンドリッシュによる ARV (複製された異星人の輸送機) の説明の中にも, 我々の初期の ARV 技術においてさえ, この問題が解決済みであったことを示す証拠が含まれている (Greer 2002)。この分野の研究への公共科学的支持は, 従来型の方法によるエネルギー発生研究に比べるときわめて少ない。しかし現在, このような技術の可能性に大きな関心が持たれている。現在理解されているゼロポイント・エネルギーについてのすぐれた論評が, ビールデン (Bearden 2002), キング (King), マニングおよびガーボン (Manning and Garbon), バロン (Valone 2007), バシラトス (Vassilatos 1999), その他多くの著者により発表されている。

全面公開が起き, 世界のエネルギー需要を賄うための化石燃料および膨大な配電網が不要であることが理解されると, 大規模なブローバック (吹き返し) が始まり, 世界経済の原動力を様変わりさせると予想される。たとえば, 21 世紀初頭を特徴づける '石油戦争' は, もはや必要がなくなる。我々はこれらの技術がすでに開発され, 秘密にされていることを知っているので, 自らの利益のためにこのような知識を世界に知らせないでいる輩に対して, おそらく訴訟と尋問が行なわれるであろう。

化石燃料からゼロポイント・エネルギー技術への切り替えは, 一夜にしてならないことを覚えておいてほしい。何と云っても世界には 6 億台を超える自動車, 電気を必要とする数十億の家や会社があるのである。これらすべての自動車を世界が一夜にして取り替えることはできない。世界の自動車の年間生産台数は 5 千万台にすぎないからである。ゼロポ

イント・エネルギーを抽出するための様々な装置を開発試験し、世界のエネルギー利用に重要な変化をもたらすほどの数量を製造するためには、長い年月と、マンハッタン計画に匹敵する多くのプロジェクトが必要になる。このプロジェクトには大量の資金が流入するであろう（おそらくベイルアウト（救済）がまた起きる）。まさしくそれは、我々が知っている世界の転換（transformation）である。ゼロポイント・エネルギーが利用可能になり、さらに反重力または電気重力輸送技術がこれに加わると、人々の生活、移動、仕事の様式は完全に様変わりするであろう。

‘力の均衡’も変化することになる。世界の石油企業上位 20 社のうちの 15 社は、収入の相当部分をそれらに依存する各国政府が所有しているため、世界の資金フローに重大な変化が起きるであろう。さらに、エネルギー部門は米国でも海外でも、政府に税金を払う多くの人々を雇用している。各国内の税務戦略も変わることになる。たとえば米国の場合、すでに地方自治体／州政府が、道路の維持管理とハイブリッドカー／電気自動車の問題に対処しつつある。これらはガソリン税をまったく払わないか最小限しか払わないのである。多くの国々において資金フローの方向が変化し、貿易収支に影響を及ぼすであろう。大量の石油埋蔵量を持つ人口過疎の国々（中東諸国の多く、その他）は、現在のような高い平均所得を享受できなくなる。技術製品を大量に生産することのできる国々（韓国、日本、中国など）には、石油豊富な国々に代わり、かつてのオイルマネーが流入するであろう。

これらのことは一夜にしてならず、全面公開が始まった後の数年間は、依然として我々は石油製品を使い続ける必要がある。しかし全面公開は、石油業界の投機的性格を変えるであろう。これらの新しい技術への転換には、大企業および一部の政府による強い抵抗がこれまでもあったし、これからも続く。いずれ近い将来にはこの変化が起きるはずであるにもかかわらず、彼らは抵抗するであろう。大規模かつ採掘容易な浅い化石燃料鉱床はすでに開発されており、採掘が困難な深い鉱床によりエネルギーに飢えた世界の増加し続ける需要を賄うのは、いよいよ難しくなっている。容易に採掘できる石油生産量が急減するピークオイル（peak oil）の時期がいつになるのか、‘専門家たち’は今も議論している。しかし、石油を見つけ出し市場に送り込むのが、益々困難で費用のかかるものになっていることは確かである。ピークオイルの時期が 2 年後なのか、それとも 20 年後なのかは、いまだに不透明である。しかし、もし人類がそのエネルギー需要を満たしつつエネルギー生産による環境汚染を減少させ、持続可能な生存を続けるならば、最終的にピークオイルは到来するであろう。そうでなければ‘マッド・マックス（Mad Max）’の時代である。

通信技術

恒星間宇宙を迅速に移動する技術には、超光速通信（super luminal communication ; SLC / faster-than-light ; FTL）を可能にする物理学の理解も含まれるであろう。この技術は、宇宙探索および宇宙植民の両方にとって必要である。だから、我々の太陽系や地球を訪れているどのような進化した文明も、故郷惑星との間で、瞬間的ではないにしてもリアルタイムに近い通信を行なう能力を持っていないと考えるのは、筋が通らない。

SLC (超光速通信) は、ウィキペディア記事の中で横柄にもこう述べられているように、一部の研究者により不可能だと考えられている：“科学によりこのような通信は不可能だと考えられているため、このカテゴリーの大部分の論文は架空の創作である” (Wikipedia 2011a) この考え方が優勢であるにもかかわらず、超光速通信の可能性をきわめて慎重に考察している多くの人々がいる。これが理論的に可能であることを、我々の一部の先進的物理学が発見しているのである。宇宙探索および宇宙植民のために必要な技術を述べた論文の中で、ローダー (Loder 2002) は SLC の可能性に関する最近の科学論文について概説している。ワンら (Wang et al. 2000) は 10 年以上前に、FTL (光よりも速い) 現象があることを実証し、現在の科学者たちから不可能と分類されているまったく新しい科学的現象の分野が生まれる可能性を示唆した。クラマー (Cramer 1997) は FTL 通信の可能性について論じ、ロドリゲス (Rodrigues 2011) はこのテーマに関する幾つかの参考文献リストを作成した。ビールデン (Bearden 2002) は手紙の中で、多くの文献を引用しながら、通常のスカラー・ポテンシャルが超光速通信その他の基礎であると述べた。ビールデンはまた、すでにケルン大学で行なわれた SLC 実証実験についても述べている。ニュー・サイエンティスト誌 (著者不明 2002) の報告によれば、“ミドルテネシー州立大学の科学者たちが、わずか 500 ドルの市販装置を用い、120 メートル余りの距離においてあの速度限界を破った” これらの初期研究が実用的な SLC 技術をもたらすものなのかどうか、現時点では不明である。

しかし、これは始まりにすぎない。これらの初期実験はその大部分が現在理解されている物理学を用いているが、ET 技術はすでにそれを越えたところにあるからである。ET が SLC 問題を解決していることは明らかなので、我々の理解を発展させるために彼らの支援を受けることは、当然ながらきわめて有益であろう。またその結果、物理学に対する我々の今日的な理解を抜本的に見直すことになる可能性が高い。その理由； SLC のために心と意識を高度に利用することが、おそらく ET の通信方法である。詰まるところ、エルウィン・シュレディンガーが 1927 年に述べたように、“多様性とは見かけにすぎず、実際には一体化した心 (one mind) があるのみ...” “量子力学は、このようにして宇宙が基本的に統一体 (oneness) であることを明らかにした” (Wilbur 1984) この ‘一体化した心’ へのアクセスが、‘遠隔透視者’ についての報告を説明する助けになる。基本的に彼らは、はるか遠くの物体を時間の遅れなしにリアルタイムで見るのである。一方、パソフ (Puthoff 2008) は遠隔視がどのような仕組みで機能するかについて、それが ‘多次元的な付加的次元’ または量子もつれ (quantum entanglement) のある側面に関係するかもしれないとしつつも、今自分に言えることは “私はそれを解明する糸口をつかんでいない” ということだと述べている。‘一体化した心’ へのアクセスは、闇のプロジェクトの中で利用されていると報告された CAT (consciousness-assisted-technology; 意識の力を借りた技術) により、さらに増強される (Greer 1999)。ET による CAT の利用が、ベル研究所の科学者により報告された。この科学者は 1960 年代に、それを調べて逆行分析するために、グレープフルーツほどの大きさを持つ 1 個の ET 交信装置を渡された。その装置は心の中で彼と交信し、こう告げた：それを複製したいと思っている人々は内心悪意を持っているの

で、科学者はそれを破壊すべきだと (Greer 1999)。

ET 通信における心 (mind) の利用については、元空軍軍曹ダン・シャーマンがその著書 '*Above Black*' の中で報告している。同書には、シャーマンがある計画の中で '直観通信員 (intuitive communicator)' として広範囲な訓練を受けたこと、その計画は 1960 年代初めに胎児に対する遺伝子操作から始まったこと、彼が関わったのは 1990 年代の数年間であったことが述べられている (Sherman 1998)。彼が様々な ET との間で行なった交信の大部分は、数字の羅列を繰り返し記録することだった。そのことを彼は律儀に述べている。しかし彼はさらに経験を積むことにより、より高い '次元 (plane)' で交信できるようになった。彼は質問を発し、その答を受け取り、視覚イメージを受け取った。ET たちは驚き、人類がこのような高い次元で交信することを予想していなかったと述べた。

約 20 年間に行なわれたほぼ 100 回の CSETI (地球外知性体研究センター) トレーニング中に、ET が CSETI メンバーと様々な方法で交信したのを我々は目撃している。これらの交信現象がグリア (Greer 1999) により簡潔に記述された。それらは心による交信 (mind communication), 光景 (sight), 触感 (touch), 匂い (smell), 音 (hearing), 印象 (feeling) を含む、人間の全感覚を利用している。それから 10 年後に、CSETI チームの主要メンバーが自ら目撃し体験したことを一冊の本に編集した。これは彼らと ET との間の驚くべき交信の記録である (Greer 2009)。上に述べたように、ET は人々と交信するために多くの方法を用いるが、しばしば発信者の心の状態、また実に意識レベルが、交信を成功させるために重要な役割を果たす。例を挙げると、1999 年にカリフォルニア州シャスタ山の近くでトレーニングに参加していた CSETI グループが、地球の平和を祈る瞑想ガイドを聴きながら瞑想していた。このとき誰の目も閉じられていた。突然、トレーニングをしていたメンバーの一人アル・ダナウェイが、頭の中ではっきりと声を聞いた。その声は、彼に上を見上げるようにと告げていた。彼が上を見上げると、巨大な三角形宇宙機がまさに頭上を通過していた。この時点で瞑想は中断され、誰もがその宇宙機を見た。それはビデオテープにも撮られた。その宇宙機は同じ週にさらに 2 回目撃された。これは、CSETI トレーニング中に起きた数千回の心による交信のうちの 1 例にすぎない。

余談であるが、SETI (地球外知性体探査) と呼ばれる計画が、ET と交信するための間違った技術である、巨大電波望遠鏡やコンピューターシステムに数百万ドルを費やし、まったく見当違いのことをしている。ET は光速度に制限された技術を利用していない - それは 'あまりにも' 遅い。SETI は偽情報、誤情報を流すことを目的としたものである可能性が高い。彼らによると、信号は受信されていない - だから何者もそこにはいない。事実を言えば、彼らは何回か信号を受信したことがあるが、それを一般には知らせてこなかった。

全面公開が起き、ET の交信方法について人々や科学者が疑問を持ち始めると、この知識の一部は明らかになる。しかし、それを本当に知るためには、心、意識、現実、および宇宙の性質についての深い理解が必要である - 硬直的な科学界が容易に受け入れられるよ

うなものではない。これは闇のプロジェクトの中では多少理解されている。しかしそれが完全に理解され、一般の科学界に受け入れられるまでには、しばらく時間がかかるであろう。これらの通信技術が、ビールデン (Bearden 2002) により述べられたスカラー・ポテンシャルまたは量子ポテンシャルに関係するのか、それともパソフ (Puthoff 2008) が言及した何か別の現象に関係するのかについては、もう少し先まで待たなければならない。

意識と医療に関する科学

知的生命の意識、そのような生命の調和宇宙における位置、これらの理解において少なくとも一部の ET は、人類の大部分よりもさらに進化を遂げている - コンタクティーたちからの情報にはこのことを示す多くの事例証拠がある。ひとたび全面公開が起きると、人類の間に ET の精神性、彼らの多様な文化（多くの文化がある）における神 (God) の概念、および意識と知性の性質について知りたいと思う機運が、いやが上にも高まるであろう。多くのコンタクティーが心によって ET とのコンタクトを経験しているので、意思疎通のために心の能力を拡張することが、多くの人々の目標になると予想される。意識の科学が新たな覚醒の時を迎え、多くの人々は瞑想や意識拡張がもたらす多様な技能または能力 (Siddhis ; 超能力など) を学ぶ意欲を呼び起こされるであろう。

人間の意識についての理解が深まると、治療や延命を含む医療科学の分野に大きな進歩がもたらされることになる。この進歩は、医療専門家がヒトの身体 (physical body) と精神体 (energy or spiritual body) の関係をよく理解し始めるにつれて起きる。すなわち、心-身体 (mind-body) のつながりのさらに進んだ理解である。これは一部の実験医学ではすでに起きているが、まだ医療専門家に広く受け入れられるまでに至っていない。上記の予想を裏付ける証拠の源は、ある種の末期疾患と診断され、数週間または数ヶ月の余命を宣告されたコンタクティーたちによる多くの物語である。彼らはある種の ET コンタクトまたは精神的コンタクトを経験し、それから間もなく自分の病気が治ったことに気付く。我々の現在の医学的理解の枠に収まらないからというだけで、そのような報告を頭から退けることは難しい。

例として、米国人ではないある友人が私に語ったことであるが、数年前に彼女は医者から乳癌と診断された。間もなく彼女は、深い瞑想中にきわめて緊密で直接的な ET コンタクトを経験した。瞑想の間、1 個の黒い小箱のような装置が彼女の周囲を舞い、身体に入り、脚から肩まで移動した。その装置は静電気のようなものを放射しており、彼女は身体にやや圧迫を感じた。彼女は、一緒に瞑想をしていた友人が彼女に触れているのだと考えたが、彼女が薄目を開けて見ると、その友人は離れた場所で深い瞑想に入っていた。また、部屋には複数の光球 (オーブ) が浮遊していた。彼女はそのとき、部屋の閉じたドアの外を ET が歩いているのを感じていた。それから 2 週間後、彼女が次の検査を受けたとき、癌は完全に消えていた。

ET から何かの支援を受け、心-身体 のつながりについての理解が向上すると、それは人

間の寿命を延ばす我々の能力に必ず影響を及ぼすであろう。健康な身体はより長く生存する可能性が高いので、健康が増進すると寿命が延びるのは当然の帰結である。人間の寿命を、地球年齢 100 歳余の壁をはるかに超えて延ばすことが可能かどうかは、さらに詳しい研究が明らかにするであろう。しかし、今日の科学者たちはこの分野の研究を続けており、特に老化過程におけるテロメアの役割に注目している (Wikipedia 2011b; Ritter 2009)。たとえば、ケルシー (Kelsey 2011) による最近の論文では、ELF 電磁共鳴場に曝すと、テロメアの長さにプラスの効果を生じることが示されている。

結語

最後に、“ET が地球に来ていることなどあり得ない” という公式見解に賛成している多くの科学者にとり、全面公開を受け入れることは感情的で苦痛を伴うパラダイム転換になるであろう。宇宙における人類の位置について大変気の滅入る、暗い、率直に言えば悲惨な考えを持っている、これらの二人の科学者を考えてほしい (出典: Davie 1995, p.58)。フランス人生物学者のジャック・モノーはこう書いている：

“古の契約は粉々に砕けている：人間はついに宇宙の無情な広漠の中で孤独であることを知る。その中から人間はほんの偶然によって現れ出たのである。人間のさだめも、務めも、書き留められたことはない”

物理学者のスティーブン・ワインバーグは、同様に悲惨な見解を述べている：

“宇宙が理解可能だと思えるようになればなるほど、宇宙が無意味なものにも思えてくる”

全面公開が起きると、この二人の科学者は大変驚くであろう。彼らは、人間と宇宙の性質について自分たちが間違った評価をしていたことを認めることができるであろうか？

全面公開は、地球に住む我々のすべてにとり、大変関心を引くものになるはずである。一般に認知された公然コンタクト (公開) がひとたび起きるや、人類活動のほぼすべての分野において重大な変化が生まれるであろう。それが ‘後戻り’ することはない。人類は宇宙の知的存在者たちの仲間入りを果たすのであり、最終的にこれは人類にとり ‘きわめて望ましいこと’ になるであろう。

引用文献

[\(原文を参照されたい\)](#)

(訳：廣瀬 保雄)

2011 年 MUFON (相互 UFO ネットワーク) シンポジウム提出論文, 2011 年 5 月 27 日
<http://www.2011mufonsymposium.com/Speakers/TedLoder.php#01>